

アフリカ大陸の南西に位置する砂漠国ナミビアでは、洪水や早ばつが繰り返す不安定な水環境が現地の人々の穀物生産を脅かしています。私たちは、JICA と JST が共同ですすめる SATREPS（サトレップス）プロジェクトにより、ナミビアで常に一定の穀物生産が確保できる新しい農法を創り出す研究をすすめています。新しい農法は現地の水環境や社会の仕組みと調和したものでないと長続きしないので、作物学、水文学、開発学という3つの分野が連携して最もよい農法を検討しています。今回の公開講座では、各分野の研究代表者が、ナミビアの現状や研究の内容についてわかりやすくご紹介します。



ナミビア共和国

いいしまもりお

飯嶋盛雄（近畿大学農学部・教授）



最近、世界のあちこちで洪水や干ばつのニュースが聞かれますが、私たちは砂漠の国ナミビアで、洪水や干ばつでも少しでも多くの作物を収穫する仕組みを研究しています。ここは半乾燥地ですが砂漠のオアシスのような季節湿地があり、その水を利用したコメ作りを紹介します。そこに暮らす人々の生活向上のための開発と半乾燥地の水資源保全を両立するにはどうしたらいいのかわかりませんが、皆さんとともに考えたいと思います。

専門は作物学。お百姓さんの家に生まれ、1983年から1985年まで青年海外協力隊隊員として南太平洋のフィジー国でコメ作り指導。名古屋大学大学院生命農学研究科助手、准教授を経て2008年4月から現職の近畿大学農学部教授(作物学研究室)。2011年から2012年まで近畿大学資源再生研究所所長。2012年よりJST/JICAによるSATREPS ナミビアプロジェクトリーダー。

ひやまてつや

檜山哲哉（総合地球環境学研究所・准教授）



ナミビア北部でコメづくりをするには、飲み水を守るためにも水環境と水収支を理解する必要があります。この地域の水は、いったいどこからきて、どこに消えるのか。水文学（すいもんがく）の立場から、研究内容の一端をご紹介します。

専門は生態水文学・水文気象学。名古屋大学大気水圏科学研究所 助手、同・地球水循環研究センター 助教授および准教授を経て2010年4月から現職。共編書に『新しい地球学 一太陽-地球-生命圏相互作用系の変動学』、『水の環境学 一人との関わりから考える』(ともに、名古屋大学出版会)など。

にしかわよしあき

西川芳昭（龍谷大学経済学部・教授）



ナミビア北部の農家の人たちとコメ作りをするために、わたしたち日本人研究者を含めて研究者はなにを学ばなければいけないのでしょうか。研究者から農家が学ぶとともに、研究者が農家に学ぶことが新しい農村をつくる力となります。開発社会学の分野からプロジェクトを紹介します。

大学で作物遺伝学を専攻したが、作物よりもそれを作る人間により興味を持ち大学院時代に開発社会学に専門を変更。国際協力機構・農林水産省・名古屋大学教授(国際開発研究科)を経て現在龍谷大学経済学部教授(農業・資源経済学) 編著に「生物多様性を育む食と農」コモンズほか。

野依記念学術交流館は地下鉄「名古屋大学」駅下車、2番出口より徒歩5分。(東山キャンパス)

〒464-8602 名古屋市千種区不老町 TEL:052-789-5907
<http://www.rcms.nagoya-u.ac.jp/access.html>

